

250キロ爆弾の穴が開いた。投下後は、大きなクレーター状の穴が開いた。 浜松復興記念館蔵



## くうしゅう 空襲にそなえて

サイパン<sup>ぎよくさい</sup>玉砕後、アメリカ軍は日本空襲へ往復できる飛行距離の飛行基地を確保した。さらにB 29の飛行を援護するため、硫黄島<sup>いおうとう</sup>を攻め取った。日本へ往復する飛行機の不時着、負傷した飛行士の収容・治療に当たるためである。  
頻繁<sup>ひんぱん</sup>になった日本への空爆に、人々は防空演習に励んだ。さらに、家の庭などに防空壕を掘り、空襲警報が出ると急いで防空壕へ逃げ込んだ。

### 暗い夜・B 29 はラジオよりも速く

ラジオは音を小さくして聞いた。「天気予報」は軍事情報になり、放送禁止になった。それよりも、空襲情報<sup>ひんぱん</sup>が頻繁になった。B 29 来襲は、ラジオで放送されるよりも速く、人々をあわてさせた。



隣組で防空演習もした。

豊橋市中央図書館蔵

警戒警報や空襲警報のため、眠れない夜が続いた。

真空管ラジオ 山澄和彦氏蔵



夜は暗かった。どの家でも燈火管制が行きわたり、電灯に黒い布をかけ、光が外へもれないようにした。

### えんこそかい がくどう そかい 食料難・縁故疎開・学童集団疎開

食料<sup>はいきゅう</sup>の配給も滞るようになってきた。あっても、とても家族の口を満たせなかった。学校の校庭や道端が急きょ畑に変わった。米の代用品として、量産できるさつまいも「護国」が競って植えられた。

1943 年末、政府は都市部児童の縁故疎開を発表。続いて 1944 年、サイパン陥落後、学童集団疎開が盛んになった。

目的は、①次代の戦闘要員の保護②防空活動の足手まといを防ぐためだった。小学3年以上は親から離れ、比較的 안전한農村部の寺や旅館などへ集団疎開をした。悪化する食料不足は、疎開先までついてきた。

B 29 来襲が日本全土に及ぶと、再々疎開もあった。



『豊橋市戦災復興誌』 豊橋市刊

### 家屋疎開・延焼くいとめのために

焼夷弾による火災の消火・延焼をくい止めるために家屋疎開も行われた。強制的に家をこわし、空き地を作るためだった。